

2007年度 第11回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>

開催日時：2008年3月11日(火) 午後7時15分～9時10分
開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室
出席委員：阿部靖子、飯塚 睦、熊田博喜、坂口和隆、瀧島喜重、安岡厚子、柳澤正樹
山下恭子、渡辺美恵<以上9名、敬称略、あいうえお順>
事務局：齊藤 睦(地域福祉課長)、中澤一郎(主事)、川崎 圭(主事)
今林朝香(コーディネーター)、丸木 敦(係長)

配布資料

- 資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(2月)
- 資料 2：コーディネート状況等月次報告
- 資料 3：西東京ボランティア・市民活動センター予定表(3月)
- 資料 4：2007年度第5回災害時のシステムづくり専門委員会会議録<確定稿>
- 資料 5：2007年度第6回災害時のシステムづくり専門委員会会議録<確定稿>
- 資料 6：2007年度第10回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>
- 資料 7：2008年度西東京ボランティア・市民活動センター事業計画(案)
- 資料 8：2008年度ボランティア・市民活動経理区分科目明細表(予算書)
- 資料 9：2008年度西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会年間スケジュール(案)
- 資料 10：西東京ボランティア・市民活動センターの今後の取り組み

委員長：全員そろったので始める。今年度最後の運営委員会となる。前回審議していただいた議題を再度検討することになっているので、事務局から後でそのことの説明があると思う。それではいつものように月次報告から始める。

1. 報 告 事 項

(1). 西東京ボランティア・市民活動センター業務報告

2月期の業務報告

事務局より、資料1に基づき2月に行われた主な事業についての報告が行われた。

委員長：何か質問などあるか。災害専門委員会はこれで最後となると思うが、今後のことについて共有したほうがよいと思うがどうか。

事務局：この後の災害専門委員会の活動報告でお願いしたい。

委員長：ではそのようにしたい。

他に質問、意見なく、2月期の業務報告を終了する。

2 月期のコーディネート状況報告

委員長：では続いてコーディネート状況の報告をしてほしい。

事務局より、資料 2 に基づき 2 月のコーディネート状況の報告が行われた。

委員長：質問、意見はあるか。

質問、意見なく、2 月期のコーディネート状況の報告を終了する。

3 月期の業務予定

委員長：続いて 3 月の業務予定について説明してほしい。

事務局より、資料 3 に基づき 3 月期の業務についての説明がある。

委員長：意見などあるか。

質問、意見なく、以上をもって 3 月期の業務予定の説明を終了する。

(2). 災害時のシステムづくり専門委員会活動報告

事務局より、資料 4、5 に基づき、災害時のシステムづくり専門委員会の活動状況についての報告がある。

事務局：災害時のシステムづくり専門委員会は 2 月 20 日の会議をもって解散となることを専門委員会の中で確認された。今後の災害をテーマにした取り組みについては、後の議題である来年度の事業計画とも関係があるが、自治会再生プロジェクトなどの日常の活動の中に災害という視点を組み入れながら実施をしていくということが専門委員会の中で確認された。

委員長：パブリックコメントに対する結果は 3 月に出るのか。

事務局：3 月に出る予定だと聞いている。

委員長：災害専門委員会には精力的に活動していただいた。今後は他の専門委員会が立ち上がると思う。

他に質問、意見なく災害時のシステムづくり専門委員会の活動報告を終了する。

(3). 理事会報告

事務局より 2 月 26 日（火）に開催された理事会において、西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会設置規則改正案が原案どおり承認された旨の報告がある。

委員長：他に大きな議題はなかったのか。

事務局：特にはなかった。

委員長：前回の運営委員会で運営委員候補者について議論したが、候補者に関してのその後について何かあれば報告してほしい。

事務局：委員長から候補者の紹介を受けて、その方に一度、ボランティア・市民活動センターに来ていただいた。口頭ではあるが運営委員就任について内諾をいただいている。

委員長：4 月に開催する運営委員会には出席していただくことになると思う。質問などあるか。

質問、意見なく理事会報告を終了する。

2. 審 議 事 項

(1). 2007年度第10回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録について

資料6により、第10回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録の確認を行う。

委員長：訂正などの意見はあるか。めいてん探し隊は、あえて平仮名を使っているのか。

事務局：そのとおり。

委員：15ページ15行目の「広報活動についてははどうか。」を「広報活動についてはどうか。」とするように。

以上の修正意見が出され、他に訂正、削除、追加などの意見なく、1箇所を訂正したうえで第10回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（未定稿）を確定稿とすることを承認した。

(2). 2008年度西東京ボランティア・市民活動センター事業計画および予算について

事務局から資料7、8に基づき再度の事業計画の審議をしていただくことになった経緯の説明および、事業計画案の提案がある。

事務局：前回の運営委員会後に開催された臨時局内会議において来年度の職員体制について事務局長から説明、報告があった。4月以降のボランティア・市民活動センター系の職員配置を課長以下現行の6名から5名とするというものだった。前回の運営委員会では現行の6名の体制の中で実施していく事業計画を承認していただいたが、職員数が減ることによってこの事業計画を実施することは困難と考えて、あらためて来年度の事業計画を審議していただくことを了承していただきたい。これは、社協が2008年度に地域福祉活動計画を策定するので、市はそれを待って社協の職員体制などを考えるという意向のためにこのような状況になった。

委員長：運営委員会で審議したことに対してこういうことになることがどうなのかということと、市の考え方に対しておかしいのではないかと考えている。事務局長は市福祉部長、生活福祉課長と何度も交渉をもらったようだ。今後、地域福祉活動計画を検討する中でボランティア・市民活動センターをどうしていくかを検討していきたいとのことだった。今の説明に対して何か質問はあるか。

委員：昨年10月にボランティア・市民活動センターの職員が増えた理由は何か。

事務局：9月末まで受託していた事業を他法人へ移行し、それに関わっていた3人を他の事業に充てていくことを考えていた。それを地域福祉課の係全体の役割分担として考えていた。したがって、2人は新たな事業に直接関わり、あとの1人を地域福祉課内のボランティア・市民活動センター係に配置して新たな事業のボランティア活動に関わる部分を担う職員として配属させた。そのことを市と調整してきたつもりではあったが、認められなかった。平成21年度以降どうしていくかは、地域福祉活動計画やマスタープランに則って実施していくのだというのが市の現在の考え方になっている。

委員長：その3人はどうなるのか。

事務局：2人は福祉コミュニティの事業へ、1人はボランティア・市民活動センターから他部署への異動となる。

委員長：ボランティア・市民活動センター強化プランや社会福祉協議会のマスタープランなどがすでにできているのに、平成20年度に地域福祉活動計画ができてからというのは納得いかない。

委員：強化プランのなかに行政職員の理解とあるが、まさにそのことなのだと思う。

委員：市にボランティア・市民活動センターの必要性がどのように映っているのだろうか。逆を言えば私達が市へどれだけアピールしてきたかということになる。
委員長：4月以降、市福祉部長に会って説明をしていきたいと思っている。それでは事業計画についてはあらためて審議するという事でよいが。

反対意見なく2008年度事業計画について再度審議することを承認した。

委員長：ではあらためて来年度の事業計画について事務局から説明してほしい。

事務局：中間支援機能を発揮していくための事業を中心に組み直した。新規事業となるネットワークづくりとしての企業や市民活動団体の懇談会、連絡会および自治会再生プロジェクトは実施することとし、ファーストステップ講座、春！体験ボランティア、市民活動団体実務講座、災害講演会は取り止め、自治会再生プロジェクトやシニア向け講座の中に組み入れていきたいと考えている。また、シニア向けボランティア講座をシニア向け市民活動入門講座に変更したい。

委員長：自治会再生プロジェクトは、自治会再生ではなく地域コミュニティ再生というネーミングのほうがよいのではないかと。他に意見はあるか。予算についての説明はどうか。

事務局：事業を柔軟に実施できるように、一つひとつの事業ごとに予算額を出すのではなく、まとめた形で予算額を示すように変更した。予算総額では前回運営委員会で承認していただいたものからの変更はない。

委員長：事業計画、予算をあらためて承認してよいが。

反対意見なく、事務局から再度提案された2008年度事業計画案、予算案を承認した。

(3). 運営委員会の2008年度年間スケジュールについて

事務局より、資料9に基づき2008年度の運営委員会の活動について説明、提案がある。

反対意見なく、2008年度運営委員会スケジュールを承認した。

(4). 西東京ボランティア・市民活動センターのこれからについて

事務局より、資料10に基づき、アクションプランとして、今後、ボランティア・市民活動センターがどのような取り組みをしていくかの説明、提案がある。

委員長：アクションプランというのは、今後のあり方のことか。

事務局：そのとおり。

委員長：アクションプランを作るスケジュールはどうか。

事務局：運営委員会での議論を踏まえて職員で検討を重ねていきたい。これから策定される地域福祉活動計画に盛り込めるようにすすめていただきたい。

委員長：それでは以前決めた役割分担にしたがって、議論していきたい。

委員：ボランティア・市民活動センターに求められるものは何かということ、一つは設置主体が社協ということで福祉分野のボランティア活動や市民活動には強いが、それ以外には弱いということが言える。そういう意味では、他分野に強い中間支援組織は何か、福祉分野以外の強化を考える必要がある。また、住民組織などを生かした取り組みも考える必要がある。中間支援組織として求められるのは、プロデューサー的な役割で、今後の市民活動はどうあるべきかなどを提案できるような役割が求められているのではないかと。積極的に提案できるとよいと思う。西東京市にはNPO団体が多いので、これらの団体と協働していくということも考えられる。財源面からは市との連携、協力が不可欠だと思う。市の協働センターとどのようにつながるかを考えることが大切だと思う。同じ機能が2つあることは市民にとってはマイナスなので、棲み分けをする必要があるのではないかと考える。

委員：ボランティア・市民活動センターは、市民活動がこうあるべきという提案を今までしてこ

- なかったのではないかと。市民活動を牽引するというリーダー的役割を担ってほしい。
- 委員長：今の意見は、アドボカシー機能ということだと思う。ファシリテーションということも必要だと思う。強み、弱みを分析するとよい。
- 委員：ニーズを発見するということが大切。ただ待っているのではなく、自分から見つけていくこともコーディネートではないかと思っている。中間支援組織の役割だと思う。市がつくるセンターと区別していくことが必要だ。
- 委員長：事務局は市が設置するセンターを受託したいと考えているのではないかと。
- 事務局：受託したいと思っているが、行政の考えとは違う部分も当然あると思うので、その部分は明確にしていきたいと思う。
- 委員長：商店街の活性化が今、各地で課題となっているが、商店街を活性化していく取り組みもまさに市民活動ではないか。
- 委員：他市では、商店街の活性化に取り組んでいるNPO法人もある。団塊の世代が子ども達に勉強を商店街で教えるような取り組みもよいのではないかと。
- 委員長：4月の運営委員会ではアクションプランを作成するためのスケジュールをみながら議論したい。
- 委員：具体的なことは考えていないのだが、市民に呼びかける言葉が地域によってはすごいものがある。地域デビューとか、ポラナビという言葉もある。こういった言葉を新鮮に感じる。このような言葉を使っているところに聞いて見るとキャッチフレーズにどこも思い入れがあるようだ。インパクトが大切なのではないかと思う。キャッチフレーズを考えたらどうか。
- 委員長：地方へ行くと広報誌でアドボカシーや主張をしているものがある。参考にしてはどうか。
- 委員：お店に来るお客様で紙芝居をやっている人がいる。お店を使ってボランティア活動で紙芝居をやりたいという希望がある。私のところで今度やってみようかと思っている。そのようなことも市民活動だと思うし、情報の発信ができ、出会いのきっかけになればよいと思う。
- 委員長：住民から近いところに拠点があるとよい。
- 委員：にこにこの1週間はどうなっているのか。
- 事務局：今のところ利用団体がある時だけ開けている。
- 委員：そういったことも市民はわかっていないのではないかと。
- 委員長：アクションプランを3ヶ年計画で落とし込んでほしい。来月は学びの場と相互交流の場の提供、市民参加による新たな事業へのチャレンジの部分を議論する。事務局には議論の基になるものを用意してほしい。

以上をもって、2007年度第11回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議を終了し、散会する。